



新しい日田の 森林・林業・木材産業振興ビジョン



令和元年度
取組内容

「日田もりビジョン」に掲げる 日田市が目指す森林・林業・木材産業



3つの施策に分けそれぞれに目指す方向性を提示

施策体系	目指す方向性
(1) <u>森林(もり)を守り・育てる</u> (森林、林業に関わる部分)	森林の多面的機能を将来にわたって享受できるように、森林の適正な整備、保全を目指す
(2) <u>森林(もり)を活かす</u> (木材産業に関わる部分)	日田材のブランド化を進め、素材生産から製材、流通、住宅等が一体となった、生産・販売の拡大を目指す
(3) <u>森林(もり)でつながる</u> (木育や市民協働、地域活性化、人材育成など)	積極的に「森や木」に関わってもらえるような体制づくりと森林・林業・木材産業を担う人材の育成を目指す

令和元年度「日田もりビジョン」の見直しについて

森林・林業は、長期的な視点が必要である一方、木材産業は刻々と変化する情勢に柔軟な対応が求められる。そのため、本ビジョンでは、長期的（50年後）な視点を見据えつつ、上位計画である「第6次日田市総合計画」の基本構想の終期(R9)に合わせ、計画期間をH27からの13年とした。

また、総合計画の基本計画が4年周期で見直されることから、社会・経済情勢の変化等、柔軟に対応ができるよう今後は、4年ごとに、必要に応じて見直しを行うものとした。

＝社会・経済情勢の変化＝ （H26年度に本ビジョンを策定後、5年が経過）

- 九州北部豪雨災害（平成29年7月）等の発生を契機とした、災害に強い森林の施業、管理方法の促進
- 令和元年度創設された「森林経営管理制度」、「森林環境税」、「森林環境譲与税」の導入による、地域の森林の適正管理の推進
- 森林資源が本格的な利用期を迎える中で、地域の森林資源の循環利用を進め、地域に利益を還元する「林業の成長産業化」の一層の推進



(1) 森林(もり)を守り・育てる

①多面的機能を発揮する豊かな森林づくり

- 水郷日田の森林づくり ● 災害に強い森林づくり ● 市有林の活用

【R元年度実績】・流木被害緊急対策事業 (H29～溪流沿いの森林整備) 4,553 【重点施策】

⇒平成29年7月豪雨災害で被害の大きかった市北部を中心に、県と市が協調して流木被害対策を緊急的に実施。(市単独事業：立木伐採、広葉樹植栽等0.4ha)

・市有林維持管理事業 (市有林の維持管理) 12,534

⇒間伐 5.12ha、下刈 17.23ha

流木被害対策
イメージ(大鶴)



・市有林活用モデル事業 (H28～) 24,333

⇒市有林の主伐を進め、災害防除やバイオマス利用のための早生樹育成のモデル林等の整備
主伐 3.85ha、植栽 5.08ha(うち、早生樹・広葉樹1.31ha)、シカネット 1,981m

【R2年度】・新森林機能強化対策事業 (危険木の伐採・除去) 5,148

⇒公民館等の防災拠点の裏山にある危険木(傾いている木)を、地域(自治会等)が森林組合等に委託して伐採・除去を行う場合に補助。(譲与税)

・新流木被害防止森林整備事業 (倒木・流木除去) 20,000

⇒平成29年7月九州北部豪雨や平成30年豪雨の際に、手つかずの流木が河川内や林地内の溪流に流出している流木等を素材生産事業者等が所有する高性能林業機械等を駆使し、倒木や流木を除去。



森林機能強化対策

※R元年度は決算額、2年度は予算額(単位:千円)

【重点施策】=ビジョンの重点施策事業 以降同様



②持続可能な森林経営の推進

- 人工林の適正管理
- 施業・森林経営の集約化



【R元年度実績】 ・ 森林整備総合対策事業（公共造林補助への上乗せ）74,696 【重点施策】
(R2：一部譲与税)

- 新森林経営管理推進事業（経営管理制度による森林整備）21,274 【重点施策】
⇒従来の補助制度では適切な森林管理が困難な場合の森林整備。既存の航空レーザー計測データを活用し、樹木の位置・高さ・蓄積量等、森林資源解析(R1~2)等の実施など。(譲与税)

- ・ 有害鳥獣被害防止対策（防護柵設置、捕獲報奨金等）57,117

- ・ 林道点検診断・保全整備事業 14,597
⇒既設の林道のトンネルや橋梁等(31橋)の点検、診断及び健全性の評価を行うもの。

- 新林道巡視維持改善事業（林道パトロール、草刈り等）2,624 (譲与税)

【R2年度】 ・ 林道作業道原材料支給事業（生コン等の支給）17,910 (一部譲与税)
⇒支給作業道延長 5,300m (R1実績：4,007m)

- ・ 林道維持補修事業（林道の維持補修工事費等）28,640 (一部譲与税)



○施策体系別目標値（森林を守り・育てる）

指標名	基準値 (R元年度(次))	2年度(次)	3年度(次)	4年度(次)	目標値 (令和5年)	備考
1 再造林(植栽)面積	102.34ha	190ha	195ha	200ha	205ha	累計
2 災害に強い森林 づくり整備面積	2.46ha	2.0ha	2.0ha	2.0ha	2.0ha	累計
3 市有林活用モデル 林整備面積	3.9ha	8.0ha	2.0ha	2.0ha	2.0ha	累計
4 シカによる農林産物 の被害額	8,037千円	7,724千円	7,411千円	7,098千円	7,098千円	単年度
5 シカの捕獲数	2,098頭	1,700頭	1,700頭	1,700頭	1,700頭	単年度
6 森林経営計画 認定率	80.2%	81%	81%	82%	82%	累計
7 作業道延長	1,100,461m	1,200,000m	1,300,000m	1,400,000m	1,500,000m	累計

※朱書きの指標名は、令和元年度改訂に伴う見直し(総合計画等の見直しに準拠)以下同じ。

○指標以外の目標

市有林の植栽において一貫作業システムやコンテナ苗の実証	市有林活用モデル事業実施
森林経営管理制度の着実な実施	森林経営管理推進事業実施

活 (2) 森林 (もり) を活かす

① 素材 (丸太) の安定供給体制の整備

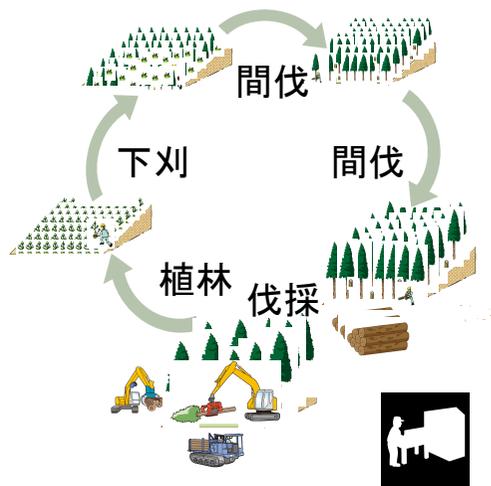
- 適正な素材 (丸太) 供給量の確保
- 素材 (丸太) 流通体制の強化

【R元年度実績】

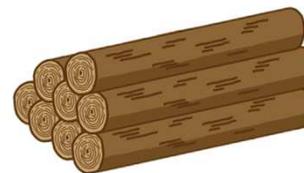
- ・ 森林整備総合対策事業 (公共造林補助への上乘せ) (再掲)
- ・ 大分西部流域林業活性化センター等における関係団体との意見交換会

【R2年度】

- ・ **新林業・木材産業構造改革事業 (選木機整備) 40,080**
⇒ 木材加工流通施設等の施設整備に対し支援を行い、需要者ニーズに対応した木材製品の安定的・効率的な供給体制を構築



日田市内素材 (丸太) 生産量 ⇒ 平成28年次 330千 m^3 ↓
平成29年次 324千 m^3 ⇒ 平成30年次 289千 m^3





②日田材の需要拡大・販売体制の強化

●販路・販売拡大のための流通機能の強化 ●地域一体となった日田材のブランド化

【R元年度実績】・木づかい促進事業（日田材・家具の支給） 49,769 【重点施策】 ・災害分4件
・家具21件



木づかい促進事業

		件数	請負代金 (千円)	全木材 使用料(m ³)	日田材 使用料(m ³)	日田材 使用率
住宅	新築	103	2,173,531	2,283	2,113	92.5%
	リフォーム	114	375,892	330	321	97.4%



木の香る
まちづくり事業

- ・日田材普及啓発事業（国内・海外流通対策） 2,706 【重点施策】（一部譲与税）
- ・おおいた材利用促進協議会（県・県内市町村設置）による都市部への需要拡大プロモーション活動等
- ・構造材（205m³）のアメリカへの出荷助成、ベトナムバイヤーとの商談助成

・木の香るまちづくり事業 2,944 【重点施策】（R2～譲与税）
（店舗リフォーム補助）

	件数	請負代金(千円)	日田材使用料(m ³)
店舗リフォーム	10	66,590	15

うち福岡県内3件

・東京オリンピック・パラリンピック日田材PR事業(H30～) 3,433

⇒選手村のインフォメーションや銀行等が入居する施設の柱・梁等に使用 約13m³

・林業成長産業化地域創出モデル事業 86,183

（大径材の需要促進と地域の主力である無垢材の供給強化）

⇒大径材利用の一つとして、ログハウス材利用の検証や無垢材の供給強化に必要な製材所整備(2施設)



②日田材の需要拡大・販売体制の強化 (つづき)

【R2年度】 ・ 林業成長産業化地域創出モデル事業 (再掲) 10,000

(大径材の需要促進と地域の主力である無垢材の供給強化)

⇒大径材を利用した心去材の乾燥試験と需要に応じた販売調査検討のほか、当該心去材を利用した高品質な外構材の開発検討など

- 木材製品のイノベーション推進・需要創造
- 公共建築物等における木造化・木質化の推進

【R元年度実績】 ・ 木材製品デザイン力向上事業 【重点施策】 1,749

⇒日田材を使った木材製品の開発・改良に関する助成(1件)
やワークショップ開催(3回)

・ 公共建築物等地域材利用状況

⇒公民館など11施設 地域材利用材積 318.1m³

・ 三花公民館 (木造新築：譲与税15,000千円活用)

・ 地域材ブランド化事業 150

⇒国際認証であるSGECのCoC認証の取得費用等を助成 (1グループ9社の新規取得)

・ 林業成長産業化地域創出モデル事業 (再掲) 2,508

(多様な高付加価値商品の開発)

⇒地域材であるユリノキを使用した家具製品(8商品)の開発や展示会出展など、商品化に向けた取組



三花公民館(木造新築)



③森林資源の有効活用の推進（山業の推進）

- 未利用森林資源等の有効活用の推進 ● 特用林産物の振興

【R元年度実績】

- ・ 市有林活用モデル事業（再掲） 24,333
⇒早生樹・広葉樹の育成のモデル林等の整備
- ・ しいたけ生産後継者育成事業（機械導入等） 4,833
⇒新規参入者機械導入助成 3名、種駒助成 9名、ファーマーズスクール 2名
- ・ しいたけ生産活性化総合対策事業（施設整備等） 776
⇒施設整備等助成 2名
- ・ 優良竹林化整備事業（タケノコ生産用竹林整備等） 1,272
- ・ 市有林をワサビ圃場として貸出
⇒3.43ha、16名に貸出（R2.3.31現在）
- ・ 林業成長産業化地域創出モデル事業（再掲） 12,750
木質バイオマス発電用チップ生産量増加に向けた施設（チップパー）整備 1社



「しいたけもりりん」

【R2年度】

- ・ 優良竹林化整備事業（**新**竹粉碎機購入） 4,000 （譲与税）



○施策体系別目標値（森林を活かす）

指標名	基準値 (R元年度(次))	2年度(次)	3年度(次)	4年度(次)	目標値 (令和5年)	備考
1 素材生産量	288,598m ³ (H30参考)	396,000m ³	402,000m ³	408,000m ³	414,000m ³	単年度
2 除間伐面積	388ha	430ha	430ha	430ha	430ha	単年度
3 木材製造品出荷額 (家具製品は除く)	16,851百万円 (H29年度)	16,447百万円	16,477百万円	16,507百万円	16,537百万円	単年度
4 乾燥木材生産量 (大分方式認証工場分)	102,423m ³	105,400m ³	108,500m ³	111,700m ³	115,m ³	単年度
5 乾しいたけ生産量	116.3t	100t	100t	100t	100t	単年度
6 生しいたけ生産量	94.5t	95t	95t	95t	95t	単年度

○指標以外の目標

海外出荷や都市圏の顧客開拓への支援	関係機関との連携強化
関係機関と連携し、公共施設や公益性の高い民間施設の木造木質化の推進	森林環境譲与税等活用



(3) 森林(もり) でつながる

- ①市民の森林・林業・木材産業への関心・理解、保全活動推進
 - 森林環境教育による市民意識の醸成
 - 市民参加による森林保全活動の推進

【R元年度実績】 ・ 市民参加の森づくり事業（植樹祭の開催） 354 【重点施策】

⇒萩尾市有林での植樹祭の開催 福岡都市圏との交流



植樹祭

・ 木と暮らしのフェア開催 1,200 【重点施策】

⇒主催：日田地域林業・木材産業活性化協議会



木と暮らしのフェア

・ 木育推進事業 【重点施策】

⇒新型コロナウイルス感染拡大防止のため木育講演会中止

【R2年度】 ・ 木育推進事業（**新**新生児へ記(木)念品の贈呈） 2,874 (譲与税)

⇒日田市に生まれてくる赤ちゃんを祝福し、保護者向けに木箱の中に子育て情報・グッズなどを入れてプレゼント

・ **新**森林サービスの創出に向けた市民参加の講座開催 1,000

⇒主催：日田地域林業・木材産業活性化協議会

(譲与税)



②森林資源を活用した地域の活性化（山業の推進）

- 地域資源を活用した産業観光の振興
- 市民が集える森林空間の整備
- 域内外への情報発信強化

【R元年度実績】 ・ 大山ダム水源地域上下流森林づくり事業 172

⇒福岡都市圏との交流活動のため、田来原美しい森づくり公園内の植栽整備（県税：森林環境税活用）
新型コロナの影響で縮小実施



トレイル駅伝

・ 天領日田トレイル駅伝開催 (H30～) 500

⇒萩尾公園内の遊歩道を活用したトレイルコース（案内・誘導サイン整備有）において、天領日田トレイル駅伝を実施（約130名参加）

・ フォレストアドベンチャー・奥日田

⇒自然共生型アウトドアパークが、中津江村鯛生金山の隣接地に開園。樹上から滑車で降り降りるジップスライドなど。





③森林・林業・木材産業を支える担い手の確保・育成

- 担い手の確保・育成
- 地域リーダーの育成

【R元年度実績】 ・豊かな森づくり担い手育成事業 14,736

⇒林業事業体職員の福利厚生・共済掛金等の助成

・木造建築推進セミナーの開催【重点施策】

⇒主催：日田木材協同組合

中・大規模建築物の木造化を推進するため、県内外の建築士を対象とし、実践的な座学や木材産業の工場視察などを行い、中大規模の木造建築物を設計できる人材を育成（20名程度参加） 講師：安藤直人（東京大学名誉教授）ほか



アカデミー研修

・豊かな森づくり担い手育成事業（アカデミー研修助成） 1,119

⇒「おおいた林業アカデミー」研修生3人への助成

（譲与税）

・ひた林業就業体験ツアー事業 467

⇒林業に興味があり就業を希望する方を対象に、林業の仕事体験や原木市場・製材所見学を行う2日間のツアーを開催し、林業への新たな就業につなげる。

【R2年度】 ・豊かな森づくり担い手育成事業（林業労働者安全対策助成） 2,501

⇒チェーンソー防護衣・安全靴、空調服、無線機等への購入助成（R1～譲与税）



○施策体系別目標値（森林でつながる）

指標名	基準値 (R元年度(次))	2年度(次)	3年度(次)	4年度(次)	目標値 (令和5年)	備考
1 産業観光年間視察団体数 (上段:ツアー型、下段:単独型)	9団体 312人	3団体 150人	5団体 200人	7団体 250人	10団体 350人	単年度
2 森林づくり大会参加者数	201人	240人	240人	240人	240人	単年度
3 SNS読者数(Facebook フォロワー数)	495人	505人	515人	525人	535人	累計
4 認定林業事業者数	23事業者	24事業者	24事業者	25事業者	25事業者	累計
5 新規林業就業者数	20人	20人	20人	20人	20人	単年度

○指標以外の目標

新規林業就業者確保を目的とした支援制度	林業アカデミー受講支援
林業就業者への雇用安定対策の検討	森林環境譲与税等活用